

菊の園らしさが輝いてきた2学期でした

学校長 杉森伸吉

令和2年度の2学期が終了いたしました。ご協力に心より御礼申し上げます。

振り返りますと、1学期の6月まではズームによる朝の会と在宅学習、6月からは分散登校で、通常登校になったのが2学期からでした。入学式も6月に行われ、1年生の保護者の皆様には、たいへんご心労をおかけいたしました。そのことは、ほかの学年の皆様にも当てはまることで、例年当たり前のように行われてきた全校遠足や石神井公園での生活団の結団式や和楽会、富浦、箱根、日光での宿泊行事などなど、小学校時代のかけがえのないときに、たくさんの重要行事ができなく、教職員一同も、本当にわびしく、無力感や申し訳なさを持ちつつも、今だからこそできることは何かも考え、できる限りのことをさせていただいて参りました。その中で、最後に生きるたくさんの発見もありました。

2学期になり、通常登校が始まる中で、新型コロナウイルスを恐れ過ぎず、侮りすぎず、できるだけ科学的情報も取り入れて正しく恐れつつ、子どもたちの成長に一番資するように、本校として精いっぱい努力を重ねてまいりました。

その中で、大きくは休み時間の過ごし方、運動会、きくまつり、教育実習生の受け入れ方法、生活団活動、1学期できなかった活動の代替活動、クラブ活動やPTA活動、保護者の皆様のサークル活動などなど、たくさんの課題がありました。

休み時間の過ごし方に関しては、「子どもの成長にとっては遊びがとても重要だ」という心強い言葉を先生方が口々に主張され、私も大変うれしく感じました。実は、子ども社会学会など、さまざまな子ども学の関係者を含めた専門家たちも、「子どもは本来、密な中で成長するものであり、三密の回避が行き過ぎると、子どもたちの育ちの機会を奪ってしまうことになる懸念が強い。従って、コロナ対策に関しては、大人用の対策と、子ども用の対策は、分けるべきで、大人用の対策をそのまま子どもに適用すべきではない」というメッセージを出していました。私たちも、一瞬一瞬で、大人が想像もできないくらい、さまざまなことを感じ取り、成長していく子どもたちの成長の機会を奪ってしまうことは許されることではないと思っていました。ですので、できるだけ安心していただけるように配慮はしつつも、できるだけ通常通りの活動ができるように、工夫してきました。その結果、例年通りではございませんが、1年生と6年生のきずななど、異年齢集団のつながりも、着実に形成されてきたと思いますし、教育実習生と子どもたちの心のきずなも、例年通りに形成できたのではないかと思います。また、昨年のPTA講演会で申しましたように、これから子どもたちが生きる社会は、変動性(volatility)、不確実性(uncertainty)、複雑性(complexity)、曖昧性(ambiguity)の高まるVUCA世界であるという観点から、できるだけ子どもたちにも、さまざまな行事などのコロナ対策をどうすればいいか、考えてもらう方向にシフトしてきております。子どもたちが決めきれないことは、教員が決めますが、こういう中での意思決定力を高めることも、今だからこそできる重要な教育ではないかと思います。

新型コロナウイルスに関しては、春の段階では、暑さや湿気、あるいは寒さや乾燥のどちらに強いのが未知数でしたが、今の段階になって、寒さや乾燥のほうが、威力を増すことが明らかになってまいりましたので、これからはますます気を引き締め、安全安心を重視しながらも、子どもたちの育ちをできれば例年にも増して高められるように、各ご家庭と協力しながら工夫を重ねて参りたいと思います。

末筆になりますが、今年度のPTA講演会も、お話をさせていただく予定です。今回は校内のYouTube配信で、いじめなどについて、お話しできればと思います。また、お子さんも視聴されることを鑑み、お子さんたちも楽しめる(かもしれない)コンテンツも住田会長様と協力して入れられたらと思いますので、よろしくお願い申し上げます。本年も、誠に有難うございました。いろいろとお疲れ様でした。どうぞ良いお年をお迎えください。